



## PROFILE

奥慶一 (おく けいち)

作曲家

洗足学園音楽大学音楽学部 客員教授

東京芸術大学音楽学部作曲科卒業

http://www.st-ora.com/

香り KAORI ZUISOU  
随想

## 山寺幻想

奥慶一

それは暑い夏も半ばを過ぎたある日の出来事であった。一人の男が山寺の参道へ向かって歩いて来た。

彼の名前は宇多祐介。普段は東京で会社勤めしているが、今は夏休みで滋賀の実家に帰省しているのである。

山あいのこのお寺は永源寺と言い、愛知川の源流に近い臨濟宗永源寺派の総本山である。鎌倉時代、寂室元光和尚によって建立されたと伝えられている。

宇多祐介が小学校の頃、全クラスでここに来てキャンプをしたことがある。今回は帰省中の暇つぶしに立ち寄ったのであった。木々の緑が目につく。平日の午後で、暑いせいのか人の気配もない。

その時、山の方から吹いてくる風が汗ばんだ祐介の頬をなでていった。

最初に現れた二人の兵士は浅井長政に仕えていた兵である。浅井・朝倉氏討伐・徳川軍の戦いの時、姉川か小谷城で命を落としたものと思われる。祐介はこれは夢に違いないと思っただけ、もう少し醒めずにいる人物達と共に時間を過ごしたいと思っただけ。

藤吉郎と呼ばれた男は信長に再会の喜びを伝え、信長亡き後の自分の苦勞話を語り始めた。浅井の兵士兄弟はじつとその話を聞いている。ふと気がつく、彼らを取り巻くように大勢の負傷兵とおぼしき男達が時折ざわめきながら会話を注目していた。涙をこぼしている者もいる。

その時太陽が雲に隠れ、にわかに一陣の風が起った。群衆がざわめく。「時が経ち人の世は変わりましたが、いずれの世にも人の心ほど変わ

ると同時に祐介はどこかで琵琶の音が鳴ったような気がした。どこからともなく大勢の人のざわめきと笑い声が聞こえるようでもある。視線を感じて道の左側を見ると、一人の男がこちらを見ている。その顔は痛みで歪んだまま石になってしまったような表情だが、薄ら笑いを浮かべているようでもある。よく見ると背中に矢が刺さっている。

祐介は「どうしましたか？」と声をかけた。男は「ああ、これか。」と背中を指さし、「これはもう、ええんじや。もう今は痛くないんじや。」と言った。すると、横にいた男が「義三郎は俺の弟じゃ。」と言った。その男は七福神の恵比寿大黒が瘦せたような人の良さそうな顔つきであった。

「おれは義一郎じゃ。」義三郎と呼ばれた男は「そうじゃ。浅井の殿様

りやすいものはございませぬなあ。」「わしの時は戦ばかりの世の中じゃったが、世の中に戦は消えてはおらんぬ。戦は人の心の内にこそあるものよ。」信長が言った。「わしはもう行かねばならぬ。さらばじゃ。」馬の嘶きと共に、信長は蹄の音を残し京の方角へと消えていった。後を追うように「では、ご免仕ります。」

一言を残して男が林の中に消えていった。また一陣の風が起った。夏の日差しが戻り、祐介は吾に返った。何者かの視線を感じて傍の岩を見ると多数の石仏がこちらを見ているのであった。笑っている顔、気難しそうな顔、泣いたような顔もある。

坂の上の永源寺から涼しい風に吹かれて、微かなお香の香りが漂ってきた。見ると祐介の前に二匹の赤とんぼが飛んでいる。気がつく、石仏の

を奉ずる侍じゃ。」と言った。その時、後ろで甲高い笑い声がした。振り返ると馬にまたがり細面に髭を生やした男がこちらを見下ろしながらにやにやと笑っている。この顔には見覚えがある。「小谷の城攻めはのう……」と遠くを見ながらつぶやいた。

やにわに二人の侍の顔が曇り、「織田……」と顔を見合わせながらつぶやいている。「このあたりに来るのも久しぶりじゃ。」と馬から下りた男は言った。「ほんに……人の心は移ろい易いものじゃ。」信長とおぼしき男は言った。

その時、林の中から息をきらして走って来る者がいた。どこかで見覚えがあるような親しみやすい顔である。「上様、お久しぶりでございます。」「おお、藤吉郎。」どうやら、後に羽柴秀吉と改名した木下藤吉郎らしい。

周囲にも沢山の赤とんぼが空中に止まったまま飛んでいるのであった。一匹の赤とんぼは祐介を案内するかのよう、寺の方へ飛んで行く。祐介は暗い参道の階段をお香の香りのする寺の方へとゆつくり登って行った。



拙い文章にお付き合い下さいましてありがとうございます。夏のある一日、実際に私がした体験を基に脚色を加えました。ほのかな薫りというものはまことに奥ゆかしい、人の記憶を呼び覚ます効果があると思います。仕事の締め切りが近づくと心が焦り荒立って来ますが、お香を焚くと不思議とそれが静まるような気がいたします。そんなときには、家伝好文木を愛用させていただきます。

薫りを聞くということ、ほのかな薫りをよしとする日本の伝統は、後生に伝えていきたいものであると思っております。